

特別講演 1

「外来インスリン導入のアート

— 1 ランク上の血糖コントロールをめざして —

京都府立医科大学大学院医学研究科 内分泌・代謝内科学 准教授

長谷川 剛二 先生

糖尿病治療の目標は、合併症の発症・進展を阻止し健康人と変わらない生活の質と寿命を確保することである。血糖コントロールはその根幹にあると言える。インスリン製剤は、副作用である低血糖により使用が制限されるが、最も強力で確実な効果が期待できる血糖降下薬である。しかしながら医師、患者の両者にとってインスリン治療導入には大きな障壁が存在するのが現実である。複雑化する糖尿病治療の中で、持効型アナログ製剤を1日1回追加するBOT (basal supported oral therapy) はインスリン治療導入のブレークスルーとなり得る。本講演では、まずインスリン治療導入における医師側、患者側の問題点を見直したい。そして、インスリン治療の方法論とともに、すぐに使える実用性を最優先として自らの臨床経験から得たインスリン治療導入のアート (コツ) をお話したい。